

凍結組織切片作製装置

仕 様 書

令和5年12月

奈良県総合医療センター

1. 調達物品及び調達数量

凍結組織切片作製装置 一式

2. 調達物品に備えるべき要件

調達物品及び構成内訳

凍結組織切片作製装置 一式

(内訳)

2-1	凍結組織切片作製装置	1 台
2-2	ドラフトジェネレーター	1 台

(性能・機能に関する要件)

3 凍結組織切片作製装置

- 3-1 外法寸法はハンドル部を含み幅785×奥行781×1185mm以下であること。
- 3-2 操作パネルはカラータッチディスプレイに日本語とイラストで表示されていること。
- 3-3 庫内はオゾンガスにより細部まで清潔に保つ機能を有しており、マニュアル又はプログラム設定出来ること。
- 3-4 不要な切片を除去する薄切片吸引除去機能を有すること。
- 3-5 庫内設定温度は-10℃～-35℃の範囲以上で設定出来ること。
- 3-6 試料台温度は-10℃～-50℃の範囲以上で設定出来ること。
- 3-7 試料台の位置はボタン一つで切り始め位置に移動出来るホームポジション機能を有していること。
- 3-8 クライオプラス温度は-55℃以下に冷却可能であること。
- 3-9 霜取り機能を有しており、マニュアル又はプログラム設定出来ること。
- 3-10 薄切切片厚の設定は1μm～99μmの範囲以上で1μm単位で設定が可能であること。
- 3-11 替刃はロープロタイプとハイプロタイプ両方の替刃が簡単に選択出来、装着出来ること。
- 3-12 検体の取り違いを防止するために、クライオーバーとオブジェクトホルダーそれぞれにナンバリングを行っていること。
- 3-13 オブジェクトホルダーには凍結時の包埋剤の膨張を極力防止する為に、穴が開いており、又、取り外しやすいように取手が付いていること。
- 3-14 薄切時の空気汚染の庫外拡散を防止し、作業員へ感染源の暴露を軽減する為に、扉の両サイドより空気を吸引し、HEPAフィルターを介して排気する機能が付いていること。
- 3-15 アンチロール板とアンチロールレイク両方の切片採取用具を装備していること。
- 3-16 サービスマンの拠点が大阪に2箇所以上の拠点があること。
- 3-17 ISO13485を取得している事。